

最後に、教育の維新について伺います。

我々のすぐ下の世代は、国が進めたゆとり教育を受けた、いわゆるゆとり世代と評されています。ゆとり教育であったために、忍耐力がない、競争心がない、内向きであるなどなど、喜ばしくない評価を受けることもあります。

しかし、そのような教育を選んだのは彼ら自身ではなく、その親や教師、行政であったりするわけです。このような状況であっても、彼ら自身は、これからみずからの責任で厳しい社会を生き抜かなければなりません。我々若い議員には、政治に無関心だと言われる彼らを啓発し、彼らとともにこれからの日本を支え、次の世代に豊かな日本を引き継ぐ責任があります。

そのような現状を考えるたびに、教育は国にとっても自治体にとっても最優先されるべき事項であると再認識します。

そこで、市長に伺います。このたび教育の維新を訴えられておりますが、維新とは物事を新たにするという意味があります。現在の日本の教育についてどうお考えで、井上市長はどのような教育を理想とされ、吹田での教育をどのようなものに変えようと考えておられるのでしょうか。施政方針で掲げられた教育人事権の移譲の目的とともに、市長の思いをお聞かせください。

私は、政治について考えるたびに、まずは先人たちへの感謝、命がけでこの国を守られた方々、戦後、額に汗して我が身を省みず日本の発展に力を尽くされた方々、我々がこの豊かな日本を享受できているのは、そのような曾祖父や祖父、父の世代のおかげであると、感謝の念がたえません。と同時に、先人たちがそうであったように、私たちも将来世代のために力を尽くさなければならぬと、強く責任を感じます。

今、日本は大きな分岐点に立たされ、そしてこの吹田も非常に大きな分岐点に立たされていると感じます。我々の世代がしっかりと責任を果たす。そして、東日本と同様に、この国自体の復興も目指して活動していく、そういう思いを持ってこの場に立たせていただきました。同様の思い、問題意識を市長や理事者の方々と共有でき、吹田市の発展に寄与できればと考えています。

以上で1回目の質問を終わります。

最後に、私の教育観についてでございますが、子供たちの確かな学力を向上させ、豊かな心や健やかな体をはぐくみ、それらを基盤として競争社会の中で生き残るための生きる力を培うことが必要であると考えております。

そのためにも、本市の特色を生かしたきめ細かな取り組みや人事制度の設計を行うとともに、学校力を高めるため、府からの教職員人事権の移譲を進めてまいりたいと考えております。

以上、よろしくお願い申し上げます。